

マルコによる福音書2章18節～22節。「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の人々は断食していた。そこで、人々はイエスのところに来て言った『ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。』イエスは言われた。『花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿が一緒にいるかぎり、断食はできない。しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。だれも、織りたての布から布切れを取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい布切れが古い服を引き裂き、破れはいつそうひどくなる。また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。』」

洗礼者ヨハネは禁欲的で生真面目だったから、弟子たちの集団は張りつめた信仰生活をしていただろう。また、ファリサイ派の人々は律法を遵守する生活を誇りにしていた。彼らの群れは自分の罪を悲しみ、貧しい人々の苦しみを担う断食を、律法で規定された通りに守っていた。一方、主イエスと弟子たちは会食を楽しみ、笑いの絶えない群れだった。宗教ではおおむね、禁欲的で規則に従って真面目に生活することを神への熱心と評価される。人々は、主イエスになぜ、あなたの弟子たちは断食しないのか、陽気に振る舞う群れは「不謹慎だ」という非難を浴びせた。それに対し、主イエスは、今は花婿がいる宴席である、喜びの宴席では断食はしない、しかし花婿が奪い去られる時がくるが、その日には、断食をすると答えている。主イエスはご自分を花婿と言ひ、花婿のいる今は喜びの時であると語っている。主イエスは新しい時代の到来を告げている。そして、新しい時代の到来を二つのたとえで示している。織りたての布を古い服に継ぎ当てしない。収縮度が違うので、古い服は引き裂かれてしまう。新しいぶどう酒を古い皮袋には入れない。新しいぶどう酒が発酵して膨張し、古い皮袋は破れてしまう。そして「新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れるものだ」と結ばれた。

主イエスは、私が神から遣わされたことによって、生真面目な洗礼者ヨハネや形式的に律法を守るファリサイ派の人々が作りあげた、もっともらしい宗教体制ではない、新しい時代が来たと言っている。旧い契約の時代は終わり、新しい契約の時代の到来の宣言である。律法に支配され、律法を行うことによって救われる信仰から、主イエスと共にいる喜びに向かって解放された「福音」を聞くことができるということである。

時代は新しくなっていない。自分自身も、周りの社会も、世界の情勢も人間の変わらぬ罪が生み出す狂おしいほどの悲惨の中にある。昔と今は変わっていない。どこに、神の愛と正義が見えるだろうか。

しかし、主イエスの十字架と復活によって、全ての罪が赦され、キリストの恵みに既に招き入れられている。花婿イエスがもたらした新しい時代の到来を信じる時、どんなに破れていようとも、否定的にではなく、喜びをもって、今をおおらかに肯定し、前を向いて生きることができる。全てを是認したキリストの恵みが現実となっている「福音（喜びのおとづれ）」が真実であるからである。